

2004年2月26日

Hitachi Global Storage Technologies

Serial Attached SCSI 2.5型 サーバ向け HDD デモンストレーションについて

— Small Form Factor (SFF) HDD の年内製品化見通し —

Hitachi Global Storage Technologies(本社機能:米国カリフォルニア州サンノゼ市、CEO:成瀬淳、以下、日立 GST)は、2004年3月1日に開催される SAS (Serial Attached SCSI) PlugFest (プラグフェスト)(*1)にて、2.5型 Small Form Factor (SFF) HDD の試作品を出展いたします。本 SFF 試作品は、転送速度 3ギガビット/秒の SAS (Serial Attached SCSI)インタフェース構成で、今回のデモンストレーションを経て2004年内の製品化の計画です。

(*1) SAS PlugFest: SAS インタフェースを有する製品デバイス間で相互運用性を実証、確認するイベント。

日立 GST は、HDD が多数台構成でデータスループットが高く、かつ省スペースが要求されるサーバやストレージシステム向けに SFF 製品を開発しています。これらのシステムに搭載される HDD は、高速回転で高いデータ転送速度が要求される反面、高密度で実装されるため発生する熱量の少ないこと(つまり低消費電力であること)が必要です。

日立 GST は、お客様と1年以上も SAS や SFF への移行について検討してきました。今回の発表は、当社がサーバ向け HDD 製品として、次世代のインタフェースとフォームファクタを開発する重要な役割を果たしております。

SAS インタフェースの促進

日立 GST は、SAS インタフェースの標準化を促進するために、2003年には SAS 関連でいくつかの実証を行いました。業界で初めて SAS 対応のハードディスクコントロール LSI を用いて、SAS プロトコルでのリンク動作を 3ギガビット/秒で実証確認しました。お客様・パートナーとデザインや性能テスト結果などの情報を共有しています。

日立 GST は、標準化機構である SCSI Trade Association と T10 Committee へ新規格を提出する際の Serial Attached SCSI ワーキンググループの創立メンバ(当時 IBM)です。今後もこれら 2つの標準化機構のメンバとして活動していきます。

SAS はエンタープライズサーバ環境において SCSI の後継インターフェース規格として広く認知されています。本規格は、業界標準の SCSI プロトコルをベースに、ポイントツーポイントのシリアル接続、デュアルポート、接続台数の拡張、および Small Form Factor(SFF)への拡張性などを定義しています。コネクタの小型化とケーブルの小径化はシステムの高密度実装と SFF デバイスの採用に有利となります。

SAS PlugFest

第一回 SAS PlugFest は米国 ニューハンプシャー州の UNH (ニューハンプシャー大学) で行われます。HDD、コントローラ、試験設備、ケーブル、コネクタやシステム関連企業など多数の参加が見込まれます。本イベントは、SAS 設計上の信頼性確立のため、相互接続性や SCSI デバイスとの互換性、その他の技術項目について公開討論が行われます。

■報道関係問合せ先

株式会社日立グローバルストレージテクノロジーズ 企画管理部 広報グループ【担当:鈴木】

〒256-8510 神奈川県小田原市国府津2880番地

電話:0465-49-4917(ダイヤルイン)